



令和4年度

亀山市立川崎小学校

研究デザイン



教育大綱 基本方針

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研究基本方針

一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら、なかまとともに主体的に学ぶために

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな身体をはぐくみ、自己肯定感、自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

1 川崎小学校コミュニティ・スクールとしての基本理念

地域の中で、みんなで生き生きと学ぶ川崎っ子の育成

2 学校教育目標

「ふれあいを通して人と人がつながり 学びにあふれる学校」

- ・保護者・地域と情報共有しながら、協働し、大人も子どももつながる
- ・豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動を創造する

めざす川崎っ子像

- ① 「川崎小学校十か条」を実行する子
 - ② 自ら進んで学習し、思いを伝える子
 - ③ 違いを認め、受け入れる子
 - ④ 心身共に健康で、命を大切にする子
 - ⑤ 自分と仲間、家族と地域を大切にする子
- ☆やさしく、かしこく、たくましく☆

めざす教職員像

- ① 児童理解に努め、自らの専門性と指導力の向上に励む教職員
 - ② 創造的な発想と多くの対話で、教育課題に積極的に取り組む教職員
 - ③ 開かれた学校づくりのため、保護者や地域との連携を深める教職員
- ☆明るく、仲良く、元気よく☆

3 研究主題及び研究領域

「一人ひとりの子に『深い学び』を」 ～「主体的・対話的」な地域学習の授業づくり～

研究領域：生活科、総合的な学習の時間、自立活動

4 研究主題設定の理由

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果および、令和2年度みえスタディ・チェックの結果から、国語においては、「読み取ったことを根拠に自分の考えを書くこと」「様々な資料や初見の文章から必要な情報を読み取ること」、算数においては、「考え方や判断した理由を記述すること」「既習内容を活用すること」など、記述式の問題に課題が見られた。

このような傾向から、子どもたちに「書く力」「読む力・読み取る力」を育成することが必要であると考え、これまで主に国語科を中心に研究を進めてきた。そして、川小版「学びのスタイル」という授業の基本形のもと、「めあて」と正対した「ふりかえり」を意識した逆算設計で授業展開を考え、「ふりかえり」から、子どもの学びの変容を検証してきた。

その結果、「めあて」と「ふりかえり」に対する教員の意識は向上した。また、子どもたちに「ふりかえりの視点」を与えて書かせたことにより、「ふりかえり」の量や質も少しずつ向上し、書く力が伸びてきている。

一方で、「知りたい」「やってみたい」「考えてみたい」という子どもたちにとっての主体的な学習や「話したい」「伝えたい」「聞きたい」という思いをもって臨む対話的な学習については、さらに子どもの力の伸びしろがあると考えている。それは、令和3年度の全国学力・学習状況調査及び、みえスタディ・チェックで次の課題が見られたためである。国語では「目的に応じて様々な情報を読み取ったり、活用したりすること」「文章から読み取ったこと、調べて分かったことなどから、自分の考えを主張する文章を書くこと」、算数においては「求め方や意味を説明すること」「考え方や、判断した理由を記述すること」である。

これらの課題に加え、本校は魅力的な地域教材に恵まれた土地柄であるものの、それを十分に生かし切れていないという現状もある。そこで、今年度から研究領域を生活科、総合的な学習の時間、自立活動に設定し、改めて地域教材を整理し、単元計画を立てるとともに、それぞれの学習活動の意義をもう一度考えるための契機にしたいと考えた。そして、地域教材や、地域の方々と出会い、対話をする中から、探究的な学習を進めていきたいと考えている。これにより、子どもの主体的な活動を保障するとともに、課題の見られた、「情報を取捨選択する能力」「自分の考えを主張する能力」「理由を考え説明する能力」などを効果的に育むことができるのではないかと、また単元計画に沿って、スパイラル的に学習を行う中で探究的な資質能力が養えるのではないかと考えた。

そこで、今年度は、研究主題を「一人ひとりの子に『深い学び』を」、サブテーマを～「主体的・対話的」な地域学習の授業づくり～とし、校内研修を進めていく。

※「深い学び」とは

子どもたちが主体的・対話的な学習活動を通して、自分の思いや考えを深めたり、変容させたりしていくこと。



5 研究構想図

「書く力」「読む力・読み取る力」の育成

研究主題

「一人ひとりの子に『深い学び』を」
～「主体的・対話的」な
地域学習の授業づくり～

中部中学校区研修主題
主体的な学びと対話的な活動のある授業づくり
～学びをつなぎ、
高め合う子の育成～

主体的・対話的な授業づくり ～3つの観点と5つの要素～

① 単元（本時）の導入と課題意識の持たせ方



- 子どもたちにとって、魅力的な学習活動や指導展開の工夫
- 学習の目的・スケジュール（計画）・学習方法等、学習の見通しの提示
- つけたい力を意識し、「めあて」と「ふり返り」を相対させた授業展開の工夫。

→ア「興味関心」「疑問」「困り感」等を持つ場を設定しているか。

② よりよい対話の在り方

- 教材の特徴を生かした言語活動（対話）の位置づけとペアやグループ、全体など、目的と必要性を意識した対話活動の実施
- 自分の考えを友だちと共有したり、比較・検討したり、協議したりする対話場面の設定
- 子どもたちの意見交流や共有には、ロイロノートなどICTを効果的に活用

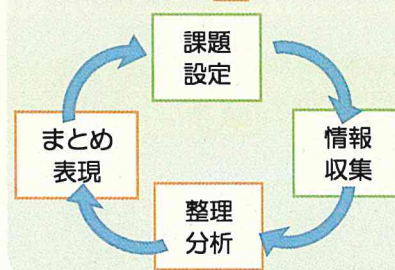
- イ 「どのように考えたか」を話す・書く場を設定しているか。
- ウ 理由と根拠を入れて話す・書く場を設定しているか。
- エ 「共通点」と「相違点」を考えながら聞く・読む場を設定しているか。

③ 学習評価

- 学習のねらいに沿った視点の提示
- 子どもの学びの変容の把握と次の学習や指導への活用

→オ 「だから」「つまり」「これらのことから」などの言葉を使ってまとめる（話す・書く）場を設定しているか。

【単元計画】 □ : 対話を重視



川小版 学びのスタイル

- つけたい力を意識し、「めあて」と「ふり返り」を相対させた授業展開
- 授業終了時の期待する子ども姿をもとに、「何を学習するのか」「どのように学習するのか」「学習のゴールは何か」を明確にして立てる「逆算設計」の学習過程の立案

学びの土台づくり

基礎的・基本的な知識・技能の定着

- 「ぐんぐんタイム」の実施 ・「eライブラリ」の活用 ・自主学習ノート ・習熟度別学習
- 家庭学習の習慣化 ・読書活動の充実

なかまづくり 子ども理解と子ども支援

- 互いを認め合えるあたたかな学級集団づくり ・子ども理解と支援の充実 ・学習規律の徹底

6 研究内容

主体的・対話的な授業づくり

(1)「川小版 学びのスタイル」の実践

「めあて」と「ふり返し」を相対させた授業展開や授業終了時の期待する子ども姿をもとに、「何を学習するのか」「どのように学習するのか」「学習のゴールは何か」を明確にして立てる「逆算設計」の学習過程の立案により、言語活動の充実、指導と評価の一体化を図る。

(2)豊富な地域教材

①能褒野開拓団、②地域の工場・ものづくり、③かんこおどり、④歴史遺産（能褒野神社、ヤマトタケル伝説、峯城、飛行場跡、巡見街道など）、⑤いこの祭り、⑥地野菜（さといも、しそなど）、⑦くろぼくなどの自然、⑧町たんけんなど、魅力あふれる地域教材が豊富である。これらを用いた地域学習を生活科、総合的な学習の時間、自立活動で進める。

(3)授業研究の観点

主体的・対話的な授業づくりに向けて下記の3つの観点を大切にし、単元計画を工夫するとともに5つの要素（ア～オ）を授業展開の中に位置付ける。単元計画では、「課題設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ表現」の過程を経ることにより、子どもの探究的な資質能力の育成を図るものとする。

① 単元（本時）の導入と課題意識の持たせ方

- ・既習経験、興味関心等に加え、教材の特徴を生かし、子どもたちに魅力的な学習活動や指導展開の工夫を行う。
- ・見通しをもち、主体的に学習に取り組むために、子どもに学習の目的・計画・学習方法等をつかませる。
- ・つきたい力を意識し、「めあて」と「ふり返し」を相対させた授業展開を工夫する。

→ア「興味関心」「疑問」「困り感」等を持つ場の設定

② よりよい対話の在り方

- ・発達段階に応じた「学習の基盤となる資質・能力」を意識し、言語活動（対話）を単元の中に位置づける。ペアやグループ、全体など、目的と必要性を意識した対話活動を行う。
- ・自分の考えを友だちと共有したり、比較・検討したり、協議したりする対話場面を意識的に設定する。
- ・子どもたちの意見交流や共有には、ロイロノートなどICTを効果的に活用する。

→イ「どのように考えたか」を話す・書く場の設定

→ウ 理由と根拠を入れて話す・書く場の設定

→エ「共通点」と「相違点」を考えながら聞く・読む場の設定

③ 学習評価

- ・学習のねらいに沿って視点を示しつつ、子ども自身の評価として「ふり返し」を書かせる。また、「ふり返し」によって、教師自身が子どもの学びの変容をとらえ、次の学習や指導に生かしていく。

→オ「だから」「つまり」「これらのことから」などの言葉を使ってまとめる（話す・書く）場の設定

学びの土台づくり

(1)基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・習熟度別学習（4・5・6年の算数）

- ・自主学习ノート

全校で自主学习ノートに取り組み、課題を自ら設定して探究していく学びの土台づくりとする。

- ・「家庭学習の手引き」

基礎学力の定着のために、各家庭に配布し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。

- ・読書活動（朝の読書）の充実

朝の読書や読書チャレンジ、ファミリー読書リレー等により、読書活動を推進する。

- ・「ぐんぐんタイム」の実施と「eライブラリ」の活用

月に1回の「ぐんぐんタイム」を設け、子どもたちの実態に応じた基礎学力の補充を行うとともに、「eライブラリ」を活用し、個別最適化した学習に取り組む。

(2)なかまづくり・子ども理解と子ども支援

Q-Uの実施と結果共有に基づくアセスメントと対応策、なかまづくり、学級づくり、SST、人権教育、いじめを見逃さない学校づくり、道徳の授業づくりなどの研修を行い、なかまづくりや子ども理解・支援につなげる。